

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2170 号

Nonmercaptalbumin as an oxidative stress marker in Parkinson's and PARK2 disease

パーキンソン病および PARK2 患者における酸化ストレスマーカーとしての酸化型アルブミン測定

上野 真一 (うえの しんいち)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、孤発性パーキンソン病及び遺伝性パーキンソン病では、健常対照群並びに多系統萎縮症や進行性核上性麻痺など他のパーキンソン症候群と比較し、血中の酸化ストレスが亢進していることを初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

パーキンソン病は、ミトコンドリア機能障害など酸化ストレスが病態の一因と考えられている。これまで多くの酸化ストレスを反映するバイオマーカーが同定されているが、パーキンソン病の病態を反映し、かつ他の神経変性疾患との鑑別診断に有用でかつ簡便に測定できるバイオマーカーの報告はほとんどなかった。

本研究では、孤発性パーキンソン病患者 216 名、健常者 146 名、家族性パーキンソン病患者 15 名、多系統萎縮症患者 30 名、進行性核上性麻痺 32 名から採取した血清を用いて、液体クロマトグラフィーによる酸化型アルブミン量の測定を行った。その結果、孤発性・家族性パーキンソン病患者では、病初期から全身の酸化ストレスが亢進している状態であることを見出し、またパーキンソン病と多系統萎縮症や進行性核上性麻痺といったパーキンソン症候群との鑑別診断に役立つ可能性が示唆された。さらに、本マーカーは全身の酸化ストレス亢進状態を反映することから、新たな治療標的となりうることが示唆された。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。